



生成AIとともに生きる高度情報化社会小さなSDGs

山口学芸大学・山口芸術短期大学学長 三池秀敏



現代の高度情報化社会を支えているのは、インターネットです。ネット上には膨大な情報が蓄積され、電子メールやSNSを介して地球上の誰とでも繋(つな)がれる環境になっています。ネット通販やネットバンキングの便利さは有難いものですが、同時に多くの危険性が隣り合わせです。インターネットは世界中の色々な人々と繋がっています。悪意の人もネットを利用し、虎視眈々(こしたんたん)と善意の人々を狙っているのも確かです。善意の人々も簡単に迷惑行為を起こします。中々繋がらないからといって、マウスを何度もクリックすれば、立派なDOS攻撃となってしまう、コンピュータ・サーバーがダウンすることもあり得ます。ネットの危険性を含む正確な知識と倫理観を持って、利用することが大前提です。

2033年前後と予測されている南海トラフ巨大地震への対応や、気候変動対策のために地域社会と連携した取り組みを推進するにも、インターネットは活用できます。今やネット上の膨大な情報を学習した人工知能は生成AIという新たなツールを提供しています。AIとのコミュニケーションにより、課題への回答を文章や画像・音声などのコンテンツとして受取ることが出来ます。他言語への翻訳も、ネイティブ並みの文案が返ってきます。こうした新技術は、ビジネスや教育の現場に新たな可能性と混乱をもたらしています。

カーボンニュートラルを自分ごと化し
カーボンニュートラルに参加し、活動し、
達成しよう！

津島 榮 (うべ環境コミュニティー副理事長)

国連事務総長は、今の地球の状態を「地球は沸騰している」と表現しました。

また2030年SDGs達成は困難と公言しています。地球環境は人間の住める限界まで気温が上昇し、熱中症で亡くなる人が出ています。そのためエアコンの使用が推奨されています。このことによりますます電力の使用量が増え、炭酸ガスの発生量が増え、地球温暖化が進むという悪循環を繰り返しています。この責任は誰にあるのでしょうか？現実には、みんな他人事となっています。それには全ての個々(関係者)、公共、企業が自分ごとと考え、認識し、行動することが必要ではないでしょうか。すなわち全ての関係者(個々、公共、企業)が自らの全ての物、活動、サービスの購入に当たっては、選択基準としてカーボンニュートラルへの影響を考慮し、選択しなければならない時代が迫っています。過去は主としてその機能と価格にて選択していました。これに炭酸ガス



既に小学校でも生成AIの一種であるChatGPTを活用した授業が行われ、大学でも多くの学生が利用する状況となり、各大学は活用方法に関する指針の取り纏(まと)めに追われています。

写真は4年前位から我が家に同居している英会話AIロボットMusioです。少し天邪鬼(あまのじゃく)な所はありますが、それなりに相手してくれます。



我が家の英会話
AIロボットMusio

2050年には地球人口が100億人に近づくと予想されています。地球上を覆いつくした人類の活動は気候現象にまで影響を与えるようになり、現代は新たな地質時代「人新世」の到来ともされます。こうした多くの課題を抱える21世紀を生き抜くには、我々一人一人が情報技術を正しく活用し、課題や危機を正しく理解し、ともに手を取り合って正しく対処していく必要があると考えています。敵を知り己を知れば、百戦危うからず、でしょうか。

注：SNS=Social Network System,
DoS攻撃=Denial of Service attack
ChatGPT=Open AI社が開発した文章生成型AI

既に電力については、炭酸ガス排出原単位(KG-CO₂/KWH)電力1kwh当たりの炭酸ガス排出量が公表されています。まだ個々が自由に炭酸ガス排出原単位を考慮して電力の購入先を自由に選択できる状態に至っていません。しかし企業レベルでは既に自社製品の炭酸ガス排出原単位を管理し、公表し、削減するため電力の購入に当たっては価格のみならず、炭酸ガス排出原単位を考慮して選択しています。

今後全ての物、活動、サービスに対し炭酸ガス排出原単位が公表され、われわれ顧客が物、活動、サービスの購入に当たっては、価格や機能に加え炭酸ガス排出原単位を考慮して選定しなければならない時代が来ると考えられます。この地球環境問題を解決するためには個々が地球環境問題を自分ごとと考え個々が地球環境にやさしい製品を正しく選択する能力を持ち、正しく選択、行動する必要が有ると考えます。

このコラムは、特に個々が地球環境にやさしい製品を正しく選択するために役立つ情報をお届けできたらと考えています。また読者の皆様がお持ちのカーボンニュートラルに有効な情報も紹介していきたいと考えます。個々、公共、企業のカーボンニュートラルへの取り組みも紹介し、多くの個々がその取り組みへの理解、支援を深めるのに役立てたらと期待しています。

連絡先：090-7375-5801 (津島)

宇部市で青パイヤを育てて みたい

山口大学大学院 新長州ファイブ 辻辺 貴晃

今年度から、宇部市則貞地区の休耕田で青パイヤを中心に様々な農作物を学生達で栽培・管理している団体(団体名:新長州ファイブ)を立ち上げ活動を行っています。なぜ私が農業に興味を持ったのか、それは大学1年生の時に出会った山口市中村進卓さん(なかむら自然農園)との出会いです。今まで、芋ほりくらいしか農作業体験をしたことのない私でしたが、野菜づくりのいろはを学び、そして自分達で畑を管理して活動させていただく機会までいただくことが出来ました。農業を通して、「人との繋がり」の大切さを学びました。まず、うまく育てるための土づくりを教えてくださいました地域の農家さん、成長に欠かせない肥料をいただいた事業者様、農作物を販売する際に売り先を紹介していただいた事業者様、出来た農作物を加工処理していただいている就労支援事業所様、そしてなにより私達の活動に応援していただいているすべての方に感謝を感じて日々活動しています。

今年度は、宇部市中央町の多世代交流スペースしばふ広場にて「ラグジュアリービアガーデン2023」にも

出店し、山陽小野田市の亀の甲農園での「オーガニックマルシェ」にも出店しております。私達の農作物に興味・関心がある方はぜひオーガニックマルシェにご来店お待ちしております。

今後の抱負として、我々の活動を見てひとりでも多くの学生さんが活動に参加していただけるようにこれからも「明るく・楽しく・元気に」をモットーに農作業に取り組んでいきたいです!

是非、私達と一緒に農業を通じて元気な地域づくりをしてみませんか?



青パイヤの木と果実



宇部市中央町の多世代しばふ広場にて LBGarden 2023参加

第30回瀬戸内海研究フォーラム in 山口 に参加して

うべ環境コミュニティー 浮田正夫

2023年8月26、27日「瀬戸内海の地域共生と豊かな彩りを目指して」をテーマに表記フォーラムが山口大学大学会館で開催されました。関根雅彦委員長のもと、山大工学部、水産大学校、宇部高専、山口県環境政策課、環境保健センターからの運営委員がプログラムを企画され、目的に沿った充実したものでした。

高度な研究は理解しきれない部分があり、市民のレベルでとくに印象に残ったことを以下に挙げます。①愛媛県西岸から備讃瀬戸にかけて広範な調査から、温暖化により変動を伴いながらも着実に魚類等の生物相に変化が見られること、②山口県沿岸の干潟や対岸の中津干潟などは渡り鳥の中継拠点として非常に貴重な環境で、干潟の重要性を認識すべきこと、③別府湾の水深70mの地点での底泥柱状試料の詳細な分析により早くも1950年代から徐々にマイクロプラスチックの微細片が変動を伴いながら増加しており、その20年程度の周期的変動は植物プランクトン成分の変動と一致していること、④コミュニティ・スクールをベースに、ひかりエコメイトによる島田川流域や虹ヶ浜における体験学習や他市にも及ぶ優れた出前授業、⑤藻場衰退の原因として敬遠されるウニを漁業者と協働して、ノ



ルウエーの培養技術を活用、北海道の昆布を餌料として畜養し、ビジネスとして成功しつつあるウニノミクス(株)、⑥香川大学経済学部の学生達による数々の地域活性化の取り組みなど。技術的には、水中ドローンの利用、環境DNAによる生物分布の把握など。

ポスター発表は33件中、プラスチックごみに関するものが5件ありました。小生もこれまで実施してきた出張おそうじ隊の活動の成果として、常盤海岸西詰、中川河口ヨシ原、小野湖ダムサイトのプラスチックごみの回収拠点およびモニタリング地点としての重要性、啓発広報の必要性を発表しました。



直近です!

☆申込はこちら⇒

第2回 環境サロン

- ・日時: 10月4日(水) 18:00~20:00
- ・場所: 宇部市多世代ふれあいセンター



宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 J R宇部線:「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス:「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し(近隣の有料駐車場等をご利用ください)

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com

開館時間 9時~17時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 土・日、年末年始(12月29日~1月3日)



Home Page



facebook



twitter



IPO 法人うべ環境コミュニティー

講演: 川尻剛士さん(山口大学教育・学生支援機構) 公害問題から環境問題へ再考-教育研究の立場から
話題提供: 浮田正夫さん 持続可能な人類文明の可能性について考える